

日本語に潜む「無意識の思い込み」の意識化を促す



Keyword: ジェンダー、無意識の思い込み、意識化



人文社会科学系
日本語教育講座 准教授

研究分野: 日本語教育、日本語学

加藤 恵梨 (KATO Eri)

https://researchmap.jp/_1231



研究概要

次の表現にはどのような「無意識の思い込み」が潜んでいるのでしょうか？

- ・「女性でも食べやすい一口サイズ」
- ・「女性ならではの感性で新しい風を吹き込みたい」
- ・「重い荷物の上げ下げなど、男性ならではのサービス」
- ・「男性でも経済的に困窮する恐れが高い」

私たちが普段目や耳にする日本語には、「女らしさ」や「男らしさ」といった人々がもつ 無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）が潜んでおり、人々に気づかれることなく長年使い続けられているものが多くあります。しかし、日常使うことばは人々が潜在的に持っている考え方に大きな影響を与えることから、ことばの中の男女の不平等は社会における男女の不平等に結びつくと考えられます。よって、まずは、それらを意識化することが重要です。本研究では、新聞記事や雑誌、広告、教科書といった身近な言語資料を分析することで、無意識の思い込みを指摘し、人々がもつ意識の改革を促すことを目的としています。

アピールポイント

男女平等の世の中になりつつあると言われ、新聞でも差別用語の不使用など見直しが進んでいますが、現代においても気づかれにくい部分で、無意識の思い込みが存在し続けています。

このような実態を意識化し、人々が無意識に抱いている日本（語）社会における女性像・男性像について改め、より良い社会の実現に取り組んでいきたいと思っています。

お問合せ先



国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

財務・学術部 学術研究支援課 研究支援係

TEL : 0566-26-2417

E-mail : renkei@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

